

令和5年度 自己評価計画書

石川県立小松明峰高等学校

(No.1)

重点目標	具体的取組	主担当	現 状	評価の観点	実現状況の達成度判断基準	判定基準	備考	
<p>(1) 3年間を見通した指導計画のもと、主体的・対話的で深い学びを取り入れた授業実践、家庭学習の充実を通して、生徒個々に応じた進路実現をめざす。また、生徒一人一台端末を効果的に活用し、GIGA スクール構想の実現による学びの質の向上を目指す。</p>	①	生徒による授業評価や教職員相互の授業参観をもとにして、学力向上につながる授業を充実させる。	教務課	昨年度後期、生徒アンケートの「授業を通じて学力がついてきている」の項目に対し「当てはまる」と回答した生徒の割合は48.9%、「ほぼ当てはまる」と回答した割合は43.7%であった。	「満足度指標」 不断の授業改善により、生徒の学力を高め、生徒自身が「学力がついてきている」と実感できる割合を増やす。	生徒アンケートの「私は授業を通じて学力（知識・技能、思考力・判断力・表現力）がついてきている」の項目に対し「当てはまる」と答える生徒の割合が A：50%以上 B：40%以上 C：30%以上 D：30%未満	C、Dの場合は、改善策を検討する。	アンケート調査を実施
	②	「予習→授業→復習」の学習サイクルの定着を通して、家庭学習の習慣化を図る。	教務課 各学年	昨年度後期、生徒アンケートの「私は予習や復習をして授業に臨んでいる（国数英3教科）」という質問に「当てはまる」と回答した生徒の割合は30.6%、「ほぼ当てはまる」と回答した生徒は34.8%であった。	「成果指標」 家庭学習が習慣化し、予習・復習にしっかりと取り組んでいる生徒の割合を増やす。	生徒アンケートの「私は予習や復習をして授業に臨んでいる（国数英3教科）」の項目に対し「当てはまる」と答える生徒の割合が A：50%以上 B：40%以上 C：30%以上 D：30%未満	C、Dの場合は、改善策を検討する。	アンケート調査を実施
	③	授業の中で生徒が思考する時間を確保し、1人1台端末を活用して、生徒個々の学びの質を高め、資質・能力の育成を図る。	教務課	昨年度後期、生徒アンケートの「1人1台端末を積極的に活用している」という質問に「当てはまる」と回答した生徒の割合は37.8%、「ほぼ当てはまる」と回答した生徒は28.5%であった。	「努力指標」 1人1台端末を積極的に活用する教員が増加する。	生徒アンケートの「1人1台端末を積極的に・効果的に活用している」の項目に対し「当てはまる」と答える生徒の割合が A：50%以上 B：40%以上 C：30%以上 D：30%未満	C、Dの場合は、改善策を検討する。	アンケート調査を実施
	④	国公立大学一般入試に対応できる記述学力の向上を図り、難関大学や金沢大学および国公立大学への進路実現率を高める。	進路指導課 3学年	昨年度、現役生の国公立大学の合格者数は87名、うち難関大学は2名、金沢大学に7名が合格した。共通テスト、2次試験に通用する学力を身に付けさせる取組を継続する必要がある。	「成果指標」 難関大学、金沢大学及び国公立大学の現役合格者数が増加する。	国公立大学の現役合格者数または難関大・金大の現役合格者数が A：100人以上 A：20人以上 B：90人以上 B：15人以上 C：80人以上 C：10人以上 D：80人未満 D：10人未満	C、Dの場合は、改善策を検討する。	

令和5年度 自己評価計画書

石川県立小松明峰高等学校

(No. 2)

重点目標	具体的取組	主担当	現 状	評価の観点	実現状況の達成度判断基準	判定基準	備考	
<p>(2) 学業と部活動の両立をめざすとともに、急速に変化する社会に対応し、挑戦する勇気を持った、たくましく、しなやかな生徒の育成に努める。</p>	①	文武両道を基本に、各部が年度当初に立てた目標を達成するよう努力する。	生徒課	教員アンケートの「年度当初に立てた目標が達成できた」の項目に対し「当てはまる」または「ほぼ当てはまる」と答えた部顧問の割合は、前期 62.2%であったものが後期は 70%に微増した。生徒が充実感を得られるために、勝利や成功体験だけではなく、やりがいを得られるような活動を目指すように工夫と改善を続ける。	「努力指標」 各部が効率的かつ効果的な練習を工夫し、成果をあげることができる。	教員アンケートの「年度当初に立てた目標が達成できた」の項目に対し「当てはまる」と答えた部顧問の割合が A : 50%以上 B : 40%以上 C : 30%以上 D : 30%未満	C、D の場合は、改善策を検討する。	アンケート調査を実施
	②	挑戦する勇気を持って生徒が自主的に取り組むことができるよう、部活動と学校行事において生徒主体の運営を進めていく。	生徒課	昨年度、生徒アンケートの「部活動や学校行事に積極的に取り組んでいる」の項目に対して「当てはまる」「ほぼ当てはまる」と回答した生徒は前期 93.9%、後期 90.0%であった。	「満足度指標」 本校の一員として、部活動や学校行事に積極的に取り組む生徒の割合を増やす。	生徒アンケートの「部活動や学校行事に積極的に取り組んでいる」の項目に対し「当てはまる」と答えた生徒の割合が A : 60%以上 B : 50%以上 C : 40%以上 D : 40%未満	C、D の場合は、改善策を検討する。	アンケート調査を実施
	③	授業の挨拶や校内での挨拶を自主的積極的にこなう。教員からのあいさつや声かけにより、生徒が自発的に挨拶する雰囲気づくりに努める。	生徒課	昨年度、生徒アンケートの「あなたは校舎内で自発的に挨拶をしていますか」の項目に対し、「当てはまる」「ほぼ当てはまる」と答えた生徒の割合は前期 98.5%、後期 87.7% であった。前期が 100%近い数字であったものが後期は激減しており、後半にかけての仕掛けが必要である。	「成果指標」 指導の結果、積極的に丁寧な挨拶ができる生徒の割合を増やす。	生徒アンケートの「あなたは校舎内で自発的に挨拶をしていますか」の項目に対し「当てはまる」と答えた生徒の割合が A : 60%以上 B : 50%以上 C : 40%以上 D : 40%未満	C、D の場合は、取組を見直し改善する。	アンケート調査を実施

令和5年度 自己評価計画書

石川県立小松明峰高等学校

(No.3)

重点目標	具体的取組	主担当	現 状	評価の観点	実現状況の達成度判断基準	判定基準	備考
(3) 地域に根ざした活動や学校情報の発信を進めるとともに、学校業務の効率化を図り、保護者や地域に信頼され、必要とされる学校づくりを推進する。	① いじめ防止基本方針に基づき、全職員の共通理解の下、いじめの未然防止や対応に取り組んでいる。	生徒課	個々の事例について、早い段階から担任・学年団・生徒課・相談室・管理職等が連携を取り、迅速に対応している。また、朝の健康観察や登校指導でも担任・副担任が生徒の表情等を確認している。	「努力指標」 いじめの未然防止を基本に、早期発見・早期対応を心掛けている教員の割合が増加する。	教員アンケートの「いじめの未然防止を基本に、早期発見・早期対応を心掛けている」の項目に対し「当てはまる」と答えた教員の割合が A：90%以上 B：80%以上 C：70%以上 D：70%未満	C、Dの場合は、取組を見直し改善する。	アンケート調査を実施
	② 学校教育に対する地域の理解を得るため、校内外において、ボランティア活動の機会を広報・推奨する。	総務課 生徒課	昨年度は低調な数値となった。生徒に地域のボランティア活動を紹介するほか、校内においても学校行事に関するボランティア作業の募集を個人・部活動単位で募り積極的に参加する機運を学校全体で高めたい。	「努力指標」 ボランティア活動に参加する生徒の割合を増やし、地域社会・学校の一員であるという意識を高める。	ボランティア活動に参加したことがあると答えた生徒の割合が A：70%以上 B：60%以上 C：50%以上 D：50%未満	C、Dの場合は、取組を見直し改善する。	アンケート調査を実施
	③ ホームページで本校の特色や教育活動の様子をタイムリーに発信するとともに、情報の速やかな更新とわかりやすいページ構成に努める。また、メール配信や学校用通信アプリにおいては必要な情報を遅延なく提供する。	総務課 企画情報課	昨年度のアンケートにおいて学校の情報発信に対して満足している保護者の割合は79.5%と一昨年度比10%ダウンであった。今年度は、ホームページ内の各部活動・各企画部署のページ更新など職員全体の情報発信の機運を高め、保護者の満足度を高めていきたい。	「満足度指標」 学校の様々な情報発信に対して満足する保護者が増加する。	学校の情報発信に対して、満足していると答えた保護者の割合が A：90%以上 B：80%以上 C：70%以上 D：70%未満	C、Dの場合は、取組を見直し改善する。	アンケート調査を実施
	④ 教材の共有や各種会議の縮減、業務の平準化等の取組を通して、生徒と向き合う時間を十分に確保する。	教 頭	昨年度、教職員の時間外勤務時間の平均(時間/月)は36.8時間、時間外勤務時間が80時間を超える教職員はなしであった。また、後期教員アンケートで「教材研究・授業準備や生徒と向き合う時間を十分に確保しつつ、これまでの働き方を見直すことができた」と感じる教職員の割合は76.6%であった。	「満足度指標」 限られた時間の中で、教材研究の時間や生徒と向き合う時間を十分に確保しつつ、これまでの働き方を見直す教職員が増加し、毎月の時間外勤務時間が80時間を超える教員が減少する。	教員アンケートの「教材研究の時間や生徒と向き合う時間を十分に確保しつつ、これまでの働き方を見直すことができたと感じる」の項目に対し「当てはまる」と答えた教職員の割合が A：50%以上 B：40%以上 C：30%以上 D：30%未満	C、Dの場合は、改善策を検討する。	アンケート調査を実施